

ビジネス倫理をどのように授業で扱うか 「商業と倫理」科目の概要



千葉商科大学基盤教育機構 准教授

手嶋 進
TESHIMA Susumu

プロフィール

慶応義塾大学法学部政治学科卒。ロンドンビジネススクール経営学修士(MBA)。外資系コンサルティング会社勤務後、IT、Web解析、再生可能エネルギー事業開発など複数のベンチャー企業の取締役を歴任した後、2019年より現職。

1 はじめに

千葉商科大学(本学)の前身である巢鴨高等商業学校の創設者である遠藤隆吉は、その建学の趣旨として有用の学術を修めること、また、実業家となるべき者に商業道徳を吹き込むことが必要であると述べている¹。したがって、実学としての倫理教育を行うことは本学教員としての使命といえる。しかし、就業経験が少ない学生に実社会での仕事でどのように自分が倫理的意思決定に関わるのかを想像させるのは容易でなく、筆者が2019年4月から担当している「商業と倫理」の授業においてもその挑戦は続いている。本稿では筆者が行っている授業のねらい、概要、履修した学生の反応を紹介し、多くの方々からご批判やご意見を頂戴して今後の教育に生かしていきたい。

2 科目「商業と倫理」の概要

2.1 科目の位置付けと対象

「商業と倫理」は基盤教育機構の一般教養科目に位

置付けられており、2019年度以降に入学した全ての学部の学生が受講できる。2019年度の履修者は春学期31名、秋学期54名、2020年度はそれぞれ41名、44名、2021年度春学期は38名であった。全学部の学生がおり、卒業生の多様な就職先を考慮して、「商業と倫理」の対象範囲を広く捉え、ビジネス全般における倫理(ビジネス倫理)を対象としている。

2.2 科目のねらい

科目の最終的な目標は、学生が知識習得だけでなく、実際に仕事をするうえで倫理的意思決定を行い、最適と判断したことを行動できるようになることである。とはいえ教室では仕事をする環境は作れないので、授業においては、①日々の仕事での行動が倫理的判断と密接に関わっていると意識できること、②拙速な判断をせず状況を冷静に見極めて意思決定できること、③人々は多様な考えを持っており自分の考えだけが絶対的に正しいわけではないと認識できることの3つをねらいとしている。

2.3 授業の構成(シラバスの概要)

初回授業でアルバイト経験を尋ねると半数から3分の2ぐらいの学生があると回答するが、1年生の比率が高いこともあり、責任ある立場で働いた者は少ない。ビジネス上の倫理的課題を取り扱うといっても就業経験が浅い学生にとっては具体的にはイメージし難く、世の中で起こっている問題が自分とは関係ない遠い存在のものだと思っている傾向がある。そこで、初回授業において、2つのことを認識させるようにしている。一つはどのような企業においても不正や倫理的な問題が発生していること、つまり、学生が就職する会社においても不正等が発生する可能性が高いこと、も

1 千葉商科大学ウェブサイト, https://www.cuc.ac.jp/about_cuc/outline_spirits/index.html (閲覧日: 2021年7月30日)

う一つはどのような些細な仕事でも倫理的判断が必要となる要素を含んでいることである。そのうえで、2回目以降の授業は学生がアルバイトや入社直後に経験する身近な題材から始め、徐々に管理職となり部下を持ったとき、経営者に近くなったときに遭遇するテーマを配置して、それらの内容を自分のこととして考えることを促す。例えば、第2回授業では、就職直後でも発生しうる、従業員個人と所属する企業の間での利益相反事例を扱う。自分が勤務する会社が、兄弟が経営する会社から文房具を購入しており、やがて自分が備品調達部門に異動となり、次第に部署内での権限が増加して自らの判断で兄弟の会社からの購入量を増やしていく過程において、自分がこの担当者だったらどの段階でどのような行動をとるかを考えさせ、議論する。第3回授業では仕事を遅滞させないために海外で公務員に贈賄した事例をもとにケース分析の仕方を説明する。第4回授業では取引先から過剰な接待を要求され、応じなければ営業案件を失い企業にとって大きな損失を被るが応じれば自社の規程に違反し、クリーンなイメージを前面に出している自社の評判を落してしまうジレンマにどう対処すべきかを議論させる。営業職に就く卒業生が多い本学の学生にとっては十分に起こりうる話である。第5回授業からは企業の管理職になったことを想定した事例に向き合ってもらう。2018年にシェアハウス投資をめぐる不正融資と行員へのパワーハラスメントが発覚したスルガ銀行の第三者委員会報告書²の抜粋や新聞記事を読み、学生に自分が支店長だったときに支店の行員にどのような態度を取るかを考えさせる。行員に圧力をかけて頑張らせなければ支店のノルマは達成できないが、それでは行員を心理的に追い込むことになり、ノルマ達成を諦めて開き直れば支店長の自分が支店長会議で立たされて罵倒され、組織の足を引っ張る対象となる。第6回は製造物に関する不正と企業の責任、第7回は企業と消費者（顧客）の関係を扱う。第8回は内部告発が問題を正す有効な手段でありながら、日本においては必ずしも告発者が守られないという現実を知る。第9回と第10回の授業では、企業の幹部になり方針決定や投資判断をする立場になったと想定して、サプライチェーン上の委託工場で起こりうる児童労働や、ファストファッション、フェアトレード、気候変動とエネルギー問題を検討する。第11回はCSRとコンプライ

アンスの取り組みについて考える。第12回と第13回（最終回）は4名から5名の複数学部の学生で構成するグループでエシカル消費や企業の地球環境への配慮など彼らが決めたテーマについて調査と資料作成を行い、発表させる構成としている。

この授業内容でどのように3つのねらいを達成し、目標に近づけようとしているのかを次に説明する。

3 授業内容と特徴

3.1 目標：知識を習得するだけでなく実践できる

ビジネス倫理を単に知識として得るだけで実践しなければ自分や周囲の人を幸せにはできない。倫理的判断が必要になる局面において最適な意思決定をし、行動できるようになることを目標としている。しかし、教室で就業環境は作れないので、実践で役立つ教育を行うのは大きな挑戦である。そこで、実践的状況に近づけるため全ての授業で事例を用いる。学期前半は題材を扱いやすいように事例を簡素化した架空事例を使い、後半は新聞、雑誌記事、企業不祥事の第三者委員会報告書、動画などを組み合わせて実際に起こった事件をもとに学生が当事者だったらどうすべきか考えて意思決定の練習を繰り返す。事例の情報を事前に読んでこない授業での議論の質が高まらないので、課題として事例情報を読ませ、倫理的な問題の定義や当事者だったらどうするかを記述させて提出させる。

取り扱う事例は、学生が卒業後に遭遇しそうな事例を選択している。本学卒業生には営業職に就く人が多いが、営業の役割は自社の製品やサービスの良いところを顧客に気づいてもらい購入契約を促すことであり、常に倫理的課題がつきまとう。筆者自身も営業経験があるが、売りたいがために製品のいい点はどうしても過剰に強調したくなり、弱みはできるだけ伝えたくないという衝動に駆られる。しかし、顧客が不利益を被るようなことをしてはならず、その一線を越えないように営業担当者は常に自分の説明と行動には注意を払わなければならない。集団でその一線を越えた事例として2019年に大きく報じられたかんぼ生命の不正販売がある。かんぼ生命の営業担当者が、自分の営業成績を上げるために数万件単位で顧客に不利益な契約変更をさせたり、契約料の二重払いをさせたりした。

2 スルガ銀行株式会社 第三者委員会（2018年）『調査報告書（公表版）』、https://www.surugabank.co.jp/surugabank/kojin/topics/pdf/20180907_3.pdf（閲覧日：2021年6月3日）

企業は従業員の行動ルールやガイドラインを設けてもそれを実際に遵守するかは個人に委ねられており、また商談の状況は毎回異なるので営業担当者自身がどう行動するかを判断しなければならない。学生たちには、国民生活センターに寄せられた実際の相談事例を示して考えさせる。銀行の担当者が78歳の女性を訪問して、米国通貨建利率変動型個人年金保険を販売したが、その女性は積立預金だと思って契約したという事例で、自分がこの銀行の営業担当者だとしたらどうしたか、営業担当者としてやっていいことといけなことの線をどこで引くかを考えさせる。学生からは、家族同席でないと販売しない、1回目の説明時には販売せず再度訪問して意向を聞く、商品を理解しているか簡単なテストをするなど様々な対応案が出てくる。事例の議論をする際は具体的な情景を思い起こさせて擬似体験になるように努めている。

3.2 ねらい1：日々の仕事が倫理的判断と密接に関わっている

倫理の問題というとニュースで報道されるようなひどい人たちが起こすものであって、自分の生活とは直接関わりのないものであると考えていたとしたら、ビジネス倫理を真剣に考えることはできない。そこで、学生が考えている以上に企業においては違法な事象が発生しており、自分が積極的に悪事を働かなくても、それに巻き込まれる可能性が一定以上あることを示すようにしている。デロイト トーマツ ファイナンシャルアドバイザー合同会社と有限責任監査法人トーマツ (2020) が427社からの回答をもとに分析した「企業の不正リスクに関する調査」によると過去3年間の不正発生は回答企業の53.9%におよび、関係会社が21社以上の企業に絞れば71.8%の企業で不正が発生している³。この比率は調査に回答した企業での比率であり、自社の不正について調査票への記入を躊躇した企業も相当な割合であったと推測され、実際の比率はさらに高い可能性がある。また、中小企業から大企

業までの財務コンサルタントをしている前田康二郎は小さなものを含めるとその経験から不正がない企業はないと断言している⁴。筆者も複数の企業の管理部門担当役員をしてきたため通常の従業員では知り得ない事象の報告を受けることがあったが、ほぼ同様の感想を持っている。

一方で、大きな不正として問題視されることはないが、実は日々の些細なことにも倫理的課題が含まれており、常に意識することが必要である。例えば、週末に個人が開くバザーのチラシを上司に了解を得れば会社のコピー機で30部印刷してもいいかと学生に尋ねると、「30枚ぐらいであれば枚数が少ないのでいい」という意見なども出るが、「何枚までなら許されるか」と問うと答えられなくなる。公私混同がなぜいけないかをクラスで議論する。また、会社に入出入りする機器メーカーの営業担当者に個人用のテレビを社員割引を使って購入させてもらうことは問題ないかというような、就職したらすぐにでも遭遇しそうな事例をあげて、学生たちに意見を述べさせる。その後、優越的地位の濫用について解説して、営業担当と仲良くなっても個人的な要求は控えるように伝える。

倫理問題が身近であることに加えて、これを看過すれば大きな問題になりうることを学生に理解してもらうことも重要だと考える。現実には起こりうることを感じてもらうために、事例を題材にする。例えば、2000年に発覚した三菱自動車工業による組織的なりコール隠し⁵と2002年に三菱自動車製の大型トレーラーから脱落した車輪によってベビーカーを押していた母親の命を奪った三菱欠陥車事件⁶を取り上げ、重大な欠陥があることを知りながらそれを隠す行為が人を死に至らしめる可能性があることを考えさせ、就職後に情報隠蔽している当該部署に配属されたらどのような行動をとるかを発表してもらう。現実には自分の身に降りかかったら見て見ぬふりをするかもしれない、新聞社などに内部告発をする、社内の他の部署に相談する、など様々な意見が出る。

3 デロイト トーマツ ファイナンシャルアドバイザー合同会社、有限責任監査法人トーマツ (2020) 『企業の不正リスク調査白書 Japan Fraud Survey 2020-2022』

4 伏見学 (2017) 「どんな会社でも不正が起きてしまうワケ」 IT Media ビジネス Online 2017年8月30日 <https://www.itmedia.co.jp/business/articles/1708/30/news033.html> (閲覧日：2021年7月28日)

5 ユーザーからディーラーに寄せられたクレームのうち、約半分の情報について運輸省の定期検査で提示するものとそうでないものを分けたうえで、コンピューター上で二重管理して組織的に隠蔽していた事件。「危機管理あきれた甘さ リコール隠し組織的に三菱自動車欠陥工作」『朝日新聞』2000年7月27日朝刊 (朝日新聞記事データベース、閲覧日：2019年5月16日)。

6 車軸と車輪を繋ぐハブに欠陥があると知りながら三菱自動車工業がこの問題が原因となり引き起こされた死亡事故等を整備不良などと主張していたが、2004年の再捜査でようやく認め、10人以上の逮捕者を出した事件。「『背信』の連鎖追及 三菱欠陥車事件追った10カ月 新聞週間」『朝日新聞』2004年10月10日朝刊 (朝日新聞記事データベース、閲覧日：2019年5月16日)。

授業アンケートで印象に残った事例を尋ねると三菱自動車工業の事件とともに多くの学生があげるのが前述のスルガ銀行不正融資事件である。当時収益率が高く、優良だと思われていた同行が経営陣も含めて組織的に不正をしていたことも驚きであったが、第三者委員会の報告に凄まじいパワハラが記載されていたことは学生にとってさらに衝撃的であったようだ。これらの授業を通して、倫理課題を考えることは他人事ではなく自分にとって重要だと認識していく。

3.3 ねらい2：拙速な判断をせず状況を冷静に見極めて意思決定する

学生のほぼ全員がスマートフォンを持ち歩き、ソーシャルネットワークにアクセスするようになった今日、多くの情報が入手できるようになり便利になったが、その情報だけをもとに即座に判断をしてしまうのは危険だ。断片的な情報だけをもとに情報を拡散（リツイート）してしまい名誉毀損で訴えられた事例もある⁷。そこで学生にはいきなり結論を出すのではなく倫理的な意思決定のための手順を示し、授業で取り扱う事例にこの手順を当てはめて議論する。意思決定の手順や検討項目は米国のビジネス倫理の複数の教科書に記述されておりどれも共通する内容が多いが、授業ではトレビノとネルソン⁸の8つのステップを紹介し、事例に当てはめて判断する練習を繰り返す。8つのステップとは、以下のとおりである。

- (1) 事実情報を集める
- (2) 倫理的課題を定義する
- (3) 影響を受ける関係者（ステークホルダー）を明確にする
- (4) 各関係者に与える影響（結果がどうなるか）を考える
- (5) 各関係者の責務を考える
- (6) 自身の人格と誠実さを考慮する（徳のある人はどのように行動するだろうか）
- (7) 創造性を発揮して可能性を探る
- (8) 心の声を聞く（直感を大切にす）

(1) について、現実では事実情報を全て集めることは不可能だ。しかし、倫理的判断をするときは少なくとも事実関係の把握を可能なかぎり行うように促し

たい。そこで、状況把握の大切さを実感してもらうため、簡単な事例を用いる。システム会社Xの営業部長に持ち込まれた小規模システム開発案件を、その部長が自分だけの判断で自らも取締役にもなっている知人の会社Yに紹介したという事例を提示して倫理課題を尋ねると、多くの学生は個人の利益のために商機をYに誘導してXに不利益を被らせる利益相反を指摘する。そこで、持ち込まれた案件の規模では収入の割には手間がかかりすぎてXの利益率を悪化させるという事実を追加で示すと、かなりの学生が部長の行動は妥当だったと判断を変更する。そこでさらに、なかには小規模案件から利益率のいい大規模案件に発展することもあると伝えて、独自に判断するのではなく、上司も含めて検討すべきだったのではないかという議論をする。情報が追加される過程で自分が正しいと思った判断が変化していくことを教室での議論で体験してもらい、わずかな情報の差異であっても自分が意図していることとは異なる判断をしてしまうリスクを感じてもらおうようにしている。

(2) では何が倫理的課題なのかを言葉で表現してもらう。ひとつの事例の中に複数の課題が含まれていることもある。単純にいい悪いという判断ができるのではなく、どちらを選択しても問題があるような倫理的ジレンマを整理させる。(3) では拙速な判断を避けるために、当該事案のステークホルダーは誰で、自分がどのような判断と行動をとるとそれらの人たちにどのような影響をもたらすかということ想像してもらう。例えば、上述した三菱自動車工業のリコール隠しでは、品質保証部が組織ぐるみで重要なクレームを二重管理して秘匿していた。学生に、誰がこの課題のステークホルダーかを考えてもらう。情報を隠蔽した品質保証部の社員、不具合をかかえた自動車を購入した顧客、三菱自動車工業の経営者、株主、他の部署の社員、三菱自動車の販売店など、影響を受けた関係者をリストアップしていく。(4) ではもしこの事件のときに自分が品質保証部で勤務していたとしたらどうするかと問い、答えを出す前にまずは行動の選択肢をいくつかあげて、それぞれの行動をとることで、どのステークホルダーにどのような影響が及ぶかを考えてもらう。クレームを隠し続ければ、会社の売上は維持できる（株主にとってはいい）かもしれないが、不具合

7 「その「リツイート」大丈夫？削除済み、炎上なしでも名誉毀損に」『産経新聞』電子版 2021年6月30日（閲覧日：2021年7月29日）。

8 Treviño, L. K. and Nelson, K. A., *Managing Business Ethics: Straight Talk about How to Do it Right Sixth edition* (John Wiley & Sons, 2014) pp.51-58.

を持った車を運転している人が事故に遭うかもしれないことなどが挙げられる。一方、品質問題を内部告発すれば、品質保証部の社員はなんらかのペナルティが与えられ、その家族や世間に顔向けできなくなり、会社の売上は低下して株主は損失を被ることになるなどの意見が出る。これら以外にも会社の通報窓口相談に行くとか、経営者に直談判するとかさまざまな選択肢が挙げられ、その都度誰にどのような影響があるかを想像して述べさせる。

次に(5)について、結果にかかわらず、そもそも品質保証部に勤めている人には本来どのような責任と義務がありどのように行動すべきかを考えてもらう。ここで多くの学生は、品質の維持に努め、もし問題があればそれを正す義務があると述べる。(6)ではどのような人でありたいか、徳のある人だったらどう振る舞うかを問う。自分に焦点をあてるのが難しい人には、もし自分のことが書かれた新聞記事を世間の人を読むとしたら、あるいは、親しい友人や家族が自分の行為を知ったときに自分という人間がどう思われるかを想像して、それが嫌だと思わないほうがいいだろうと伝える。(4)、(5)に関して事前に帰結主義と非帰結主義の考え方を説明する。帰結主義とは、行為の結果や波及効果といった帰結を手がかりとして議論を進めようとする考え方で、学生にはベンサムによって理論化された功利主義を示す。一方、非帰結主義は行為以前の動機や合意形成などに注目する考え方である。学生にはカントの義務論を説明する。(6)に関連して徳倫理という考え方があることを示し、アリストテレスにも言及する。(4)、(5)、(6)は考え方を示すだけであり、自動的に正しい答えが出るわけではない。また、それぞれの検討結果で答えが異なることもあり、最終的な意思決定は各人に任される。最後にもう一度、これまで検討した選択肢以外に(7)創造性を働かせてもっといい選択肢はないのかを考えてみる。それでも迷ったら(8)あとは直感を大切に決めていくしかない。

3.4 ねらい3：人々には多様な考えがあり自分の考えだけが正しいわけではない

基盤教育機構の授業は異なる学部の学生が教室に会し、議論するので多様な意見を聞くのには適した場所である。自分の意思で考えを述べさせることを大切に

しているので指名することはせず、学生に自主的に挙手をさせて発言させるようにしている。少ない時で出席者の3分の1、多いと3分の2近くの学生が授業中に発言する。一つの問いに異なる意見が複数出るので、人によって考え方や判断が異なることを知ることができる。

さらに学生同士が意見を交わす機会を作るため、13週目(最終回)の授業では4名から5名程度のグループで発表してもらい、異なる学部、学年でグループを作り、話し合いでテーマを決めさせて、倫理的課題、ステークホルダーへの影響、解決策などを発表させている。グループで意見を出し合っただけで発表資料を作成する過程はフラストレーションや難しさを感じることもあるが他の人のアイデアによって助けられることもあり、学びも多いと思われる。就職活動におけるグループ面談の準備にもなることを伝えて積極的に参加するように促す。

4 授業の効果

ビジネス倫理の授業を受講することで、学生はアルバイトや卒業後の職場でより良い倫理的な意思決定や行動ができるようになっただろうか。結論から言うと、受講者はまだ卒業していないし、卒業生がいたとしても職場での行動を観察することができなければ判断できない。しかし、履修者に対して実施したアンケート結果から、受講した学生に一定の影響を与えることができたのではないかと推測する。

図1と図2は、講義内容をひととおり終えた第11週の授業後(第12週、第13週の授業はグループ発表の準備と発表が主たる内容のため)に実施した2020年度の春・秋学期の合計と2021年度の春学期のアンケート結果である。なお、2020年度の授業は新型コロナウイルス蔓延の影響を受け、リアルタイムのオンラインで実施した。参加状況把握のためアンケートは記名式としたため、回答にバイアスがかかっている可能性がある。2021年度春学期は対面で授業ができたこともあり、アンケートを無記名式に変更した。2020年度、2021年度春学期ともに回答者の全員が授業の内容は社会に出たときに実際に「とても役に立つ」または「ある程度役に立つ」と回答し(質問1:図1)、

また、2020年度は回答者の74%、2021年度春学期は85%が、授業を受講する前と後とで考え方や行動に「変化はあった」と回答した（質問4：図2）。

質問2では、質問1で「とても役に立つ」、「ある程度役に立つ」と回答した人に「どのような点で役に立つと思ったか」を尋ねた。なお、質問3は役に立たない理由を尋ねるものであったが、そのように回答した者がいなかったためデータはない。質問5では、質問4で受講の前後で考え方や行動に「変化はあった」と回答した人に「どのような変化があったか」を尋ねた。

紙面の制約があるので2021年度春学期のコメントのみを表1、表2に記した。必ずしも質問に直接回答する表現になっていないものも多いので、表1、表2を合わせて授業のねらいごとに関連したコメントをいくつか見てみよう。（P.11・12参照）

一つ目のねらいである「日々の仕事が倫理的判断と密接に関わっていること」に気づいてもらう意図は、「今までは他人事のようにニュースなどを見ていましたが、事例なども見て身近な物であったため今後は改善点を考えながら暮らしていきたい」、「ノンフィク

質問1:「商業と倫理」の授業や課題等でみなさんが考えた経験はあなたが社会に出たときに実際に役に立つ内容だと思えますか？

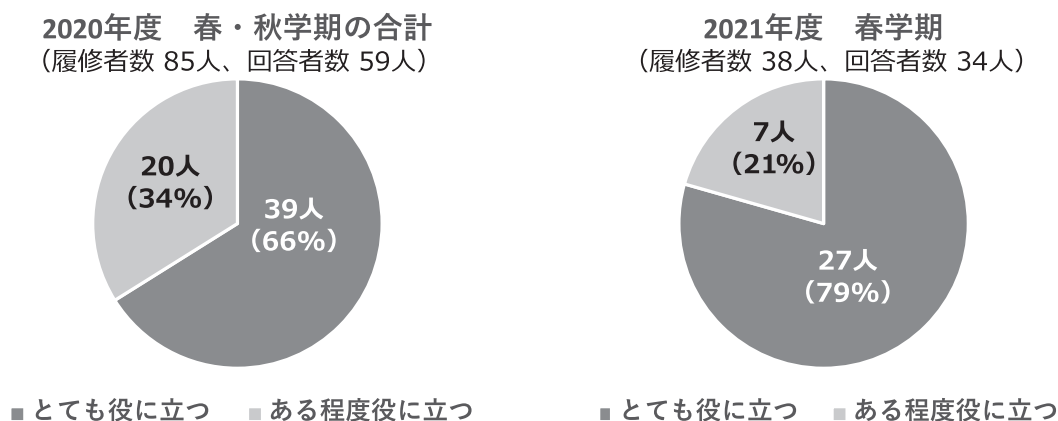


図1 履修学生へのアンケート結果（有用性）

質問4:「商業と倫理」を受講する前と後であなたの考え方や行動に変化はありましたか？

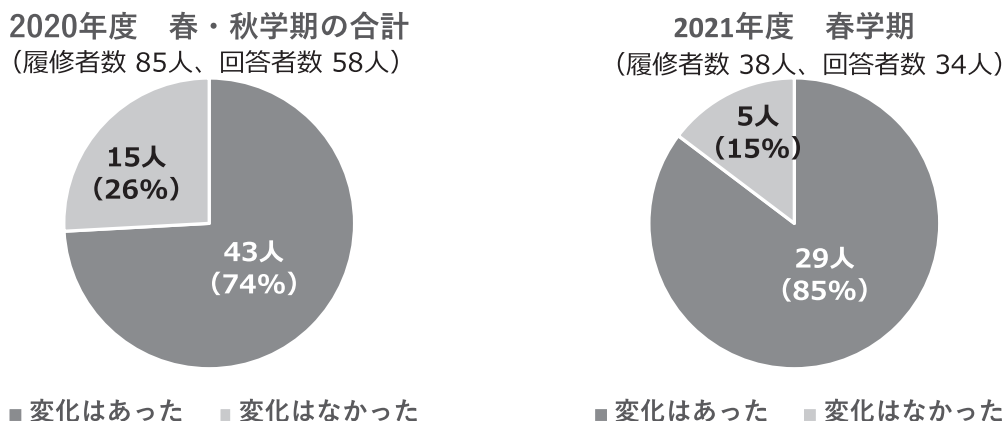


図2 履修学生へのアンケート結果（考え・行動の変化）

ションを使うことで今後実際似たようなケースに出くわすかも知れず役に立ちました」、「可能性としてはどの企業でも起こりうる事件なためとても参考になりました」、「自分が会社に就職した際に、講義で出た倫理的課題のある問題に直面するケースが大いにあると感じ」という回答があり、ある程度伝わったと思われる。二つ目のねらいである「拙速な判断をせず状況を冷静に見極めて熟慮することができる」ようになることについては、「目の前のことをすぐ飲み込まずに疑いの目でみて自分の中で砕いてから取り込むようになった」、「物事の方法を少し違った目線で考えてみようと思った。今の状況を冷静に判断」する、とか「ニュースにでていてだけでなくある程度調べたうえで判断した方がいいと聞き、普段でも噂だけではなくしっかり話を聞き正しいことだと思ったものだけを友達に伝えるようにしています」と書いた学生がいた。「倫理的課題を見つけてステークホルダーにはどのような影響が出るのか、自分が当事者だったらどうするか、と順を追った考察を毎回していたので、普段見るニュースで不正や告発以外のことでも順を追って内容を把握しようと思うことが無意識にありました」と、冷静に分析する習慣がついたとするコメントもあった。三つ目の「人々は多様な考えを持っており自分の考えだけが絶対的に正しいわけではない」ということに関しては「物事について一つの視点の考えだけではなく幅広い視点で多くの考え方をだし選択できるようになりました」、「今までとは違う判断（選択肢）を考えるようになった」、「ほかの方の意見が聞けるのもとてもよかった」と答え、「様々な事例を通して実際に考えること、他の人の考えを聞くことで自身の能力が向上したと感じている」学生がうまれるなどの

効果が見られた。最終的な目標である「知識習得だけでなく、実際に仕事をするうえで倫理的意思決定を行い、最適と判断したことを行動できるようになる」ことについては、直接の効果は把握できない。しかし、「バイト中やお店を利用する時に学んだことを意識するようになった」り、「自分が選択した考え方や行動によって生じる結果を前もって考えるようになった」りと、すでに行動する際に意識している学生もいることから、就職後もその意識が継続することを期待したい。

5 まとめ

「商業と倫理」の授業では学生たちが倫理的意思決定を行い、最適と判断したことを行動できるように実践的な内容となるよう努めている。しかし就業経験が少ない学生に実際の職場での行動を想像させることは容易ではないため、擬似体験させるために事例を多用して、それらの事例の中の登場人物になりきって考えるように促している。真剣に検討してもらうために、倫理的課題は自分の身に起こりうることを認識させ、課題に遭遇したら冷静に多角的に検討する習慣をつけさせ、人々は多様な考えを持っていることを前提に意思決定できるようになることをねらいとして授業を進めることで、一定割合の学生には影響を与えることができた。学生の要望として、動画の使用を増やして欲しい、グループでブレインストーミングする時間を入れて欲しいなどの意見があり、今以上に学生の体験を増やす工夫に努めたい。受講した学生たちが将来就職して、倫理的な意思決定を実践し、幸せな人生が送れることを祈る。

表1 2021年度春学期アンケート結果（履修者が役に立つと思った内容）

質問2:質問1で「とても役に立つ」、「ある程度役に立つ」と回答した人は、どのような点で役に立つと思ったかを書いてください。（回答は原文ママ）

自身がある程度の地位を得て、選択肢を迫られた時に、最前の選択をとることが出来るための教養となるため
将来授業で扱った事例と同じようなことが起きた場合にこの授業の経験をもとに冷静に考えられるとおもう。
社会に出たときに働くことになったら、グループワークという作業があると思うから、そこで役に立つのかなと思った。
企業のあり方や問題発生時に対する対応の仕方や考え方について知れると思ったから
自分が人生の選択を決める場にいるときに役に立つ。
物事を倫理的に考えることは、問題が生じたときや、何か行動を開始するときに役に立つと思ったから。
自分が将来企業に就職した時に取るべき行動や、起こりうることを魔なんだおかげでどのようにすれば良いかという対策を今から知っておくことができた。
社会に出たときに会社の問題に巻き込まれ自分ならどう行動するかを考えることで実際に行動するときに瞬時に対応できると思ったから。
多数の人が就職や起業した後は、企業に属するものなのだからそこでの立ち居振る舞いを学べるのは大きかったためです。
自分の考えをしっかりと述べることは社会に出た時にも実際に役立つと思いますし、私自身が置かれている状況を理解し、一つ一つの仕事をスムーズにこなせたり、不正を見て見ぬふりをするのではなく、この状況を解決できる方法を探するなど、役立つことを多くと感じた。
倫理的課題はもちろんのこと、知らなかった法律なども勉強になった。 法律や倫理的な考えを知らずに入社してしまうと悪いことだとわからずにやっちゃってしまっていたかもしれないという事例が何個もあった。しかし、法律ではそれらを知らなかったでは済まないため、ここで学ぶことができて良かったと思った。また、授業内で先生や生徒が答えた問題後の解決策や問題が起こらないように防止するための方法を自分だけでは出てこなかった発想も知ることができたのも良かった。
フィクションだけで議論するのではなくノンフィクションを使うことで今後実際似たようなケースに出くわすかも知れず役に立ちました
自分がこれから働く上での判断材料として参考になったから。
会社内での倫理的な扱いや雇用問題
就職活動の際、また実際に就職した際意思決定により慎重になる授業であったと思った。
実際に事例のようなことが起きた場合の対処法を知ることが出来た。
事例を通して実際にどうしたらいいのかを学べたという点から役に立った
社会に出た時に、やってはいけないことの線引きがわかった。
授業で行った内容が、社会に出た時に実際に起こりそうな内容だったり、今までに起きた事例を使ったりしていたので、現実味がありこれから起きた時の対策にもなると感じた。
様々なケースを倫理的に考えていくことで将来自分が就職した際に照らし合わせてどういった行動を取ればいいのかを想像できた。
今まで知らなかった、多くの企業の問題について触れて考えることができたのでタメになったと感じました。
社会に出るにあたって、働くにあたって知っておくべきこと等を踏まえて色々な事を学ぶことができるから。
自分が社会にでたとき、様々な場面で対応できる思考を養うことができると思った。
社会に出て、実際に働きだしたら知識として問題解決などに役に立つと思った。
社会人になった時もしそのような問題が起きたときの対応（考え方）を今のうちから考えることができ、実際に社会人になった時に知らない人よりかは冷静に行動できると思いました。
自分が会社で倫理に関する問題に直面した際にこの授業で学んだことを思い出して少しは良い方向へ判断をできるようになれると感じた。
可能性としてはどの企業でも起こりうる事件なためとても参考になりましたし、ほかの方の意見が聞けるのもとても良かったです。
企業に対する倫理を考えることができた。不祥事があった企業の事例を元に考えることができたので同じようなことがあった際には役に立つと感じた。
実際の事例を扱っていたので、具体的にとても分かりやすかった。
自分が会社に就職した際に、講義で出た倫理的課題のある問題に直面するケースが大いにあると感じ、その場面に直面した際に本講義で学んだ自分の考えを整理する力が役に立つと考えた。
就職して不正が社内で行われているときの自分の判断に学んだ知識などが役立つと思う。（実際の事例を使って自分が責任者だったらどうするのかを考えたから）
ビジネス倫理が問われるさまざまな事例を取り上げてくださったおかげで、自分が社会に出て同じような状況に直面した時に、授業で実際に挙げた多くの選択肢の中からどのような手順でどう対処すべきかを慎重に考えることができるようになった点。
私が社会に出た時の対応の仕方などについて学べたので悪事を働いているときは内部告発などの手段もあると知ることが出来ました。
働く場所で起こり得る問題を知ることができたので、その時の判断材料として考えることができる内容でした。倫理的に問題があると、将来において確実に明るみになるので、ルールを定めることは重要であると分かりました。

表2 2021年度春学期アンケート結果（履修者の考え・行動変化の内容）

質問5：質問4で「変化はあった」と回答した人は、どのような変化があったか教えてください。知識の幅が広がった（今まで知らなかったことを知った）とか物事をより深く考えるようになった、何々をするようになったなど考えや行動の変化を教えてください。

今までは自分の考えの中だけで社会に対して正しいと思えることを決めつけていたが、授業内の資料や他生徒の意見を聞き、新たな考え方を知ることができ、知識の幅が広がった。
今まで知らなかった企業の常識や世の中の風向きを知ることができた
企業の倫理的問題に対しての知識が増えたことで身近な問題の倫理的課題などを考えることができるようになった
社会で生きていくための基本的なことを知れた。
倫理的考察の幅が広がったと思う。知識量が増したこともあるが、様々な事例を通して実際に考えること、他の人の考えを聞くことで自身の能力が向上したと感じている。
知識の幅が広がり、ダメなことはダメという当たり前のことを改めてやっていこうと思った。
内部告発なんかするにきまってるって浅はかな考えをしていたことに気づいた。内部告発にもすごく勇気が必要でリスクを伴うことを人生で初めて知った。
目の前のことをすぐ飲み込まずに疑いの目でみて自分の中で砕いてから取り込むようになった。
今までニュースとかでしか目にしてこなかった企業の不正を、自分がその立場ならどのような行動をとっていたか、社員達はなぜ不正を起こさなければならなかったのか、その立場になって考えると、不正はよくないが、見つかってしまったら、会社が倒産したり、売上が伸びず低迷してしまったり、自分ならどのような行動を起こすかという今まで考えたことのない授業であったため、知識や理解も深められたし、とても変化があったと感じた。
今までとは違う判断（選択肢）を考えるようになった
どんな会社であっても汚職はあるのだろうと、ある種諦観的になった。
自分的には倫理的な行動だと思っていたことも間違っていることがあった。
内部告発後にも段取りがある事を知った。
物事の考え方を少し違った目線で考えてみようと思った。今の状況を冷静に判断してこれからどうすればいいのかを考えることが大事だと感じた。
倫理的な観点から色んな物事を考えられるようになった。
倫理的課題を見つけてステークホルダーにはどのような影響が出るのか、自分が当事者だったらどうするか、と順を追った考察を毎回していたので、普段見るニュースで不正や告発以外のことでも順を追って内容を把握しようと思うことが無意識にありました。
バイト中やお店を利用する時に学んだことを意識するようになった
普段触れない世界に触れることで、自分は世の中の理不尽なことを知るべきことがもっと知るべきだと感じた。
働くことを甘く見ていた。この講義を受けて、働くことで様々な問題が起きること、現在も様々な倫理的で解決が難しい問題が起きていることが分かった。
物事について一つの視点の考えだけではなく幅広い視点で多くの考え方をだし選択できるようになりました。
授業であった事例のようなことになった場合に、授業を受ける前の自分だったらこうしたら自分が得であるというような考え方をしていたと思うが、今では、倫理的に大丈夫なのかということを最初に考えられるようになったと思う。
ニュースにでていることだけでなくある程度調べたうえで判断した方がいいと聞き、普段でも噂だけではなくしっかり話を聞き正しいことだと思ったものだけを友達に伝えるようにしています。
今まで企業について考えたことはなかったが、自分でどのような点が倫理的によくないか考えるようになった。
色々な人の意見を聞くことが出来て、良かった。
ニュースを見ている際に世の中で起きている問題を客観的に自分なりに解釈するようになった。
今まで不正に対して内部告発さえすれば良いという考えだったが、内部告発をした人の後悔を映像を通して学んだおかげで、そのような甘い考え方は将来通用しないと実感できた。
自分が選択した考え方や行動によって生じる結果を前もって考えるようになった。
今までは他人事のようにニュースなどを見ていましたが、事例なども見て身近な物であったため今後は改善点を考えながら暮らしていきたいです。
内部告発の実際の例を確認することができました。倫理に反した行動の結果、部長クラスの人と部下・従業員にかかる負担の違いが分かりました。部下は、上司の命令を達成しなければならないことと、明らかに不正をしてまで結果を残さなければならないといった葛藤があることが分かりました。